流域におけるカ 給に向けた民国連携の取組

カラマツ人工林

とした天然良質材の産地として有名で 木曽谷流域は、 カラマツの人工林は、 木曽ヒノキをはじめ 木曽川沿

屋カラマツへの期待

木曽町の開田高原から木祖村にか

中心に森林資源が利用段階となっ を迎えています。今回紹介する、 てきています (写真1)。 木曽谷流域でもカラマツ人工林を の成長産業化を実現していく好機 これまで木曽谷流域では、

が利用可能な資源として成熟して

全国各地で戦後植栽した人工林

利用することで、林業・木材産業 きており、豊富な森林資源を循環

行っています。 森林の約半分を占める民有林と協 域の振興に寄与するため、流域の の利用を通じて林業の活性化や地 域において、豊富なカラマツ資源 な方法を採用する必要があります。 利用を推進していくためには、生 木曽ヒノキに比べて価格が低く を行ってきました。カラマツは 力して森林の整備や木材の供給を 産・供給の各段階でより低コスト な木曽ヒノキを中心に生産・供給 中部森林管理局では、木曽谷流

域のカラマツ資源を活かしていくため 材としても今後の需要拡大が期待され 弱地盤の液状化対策に効果的な基礎杭 には、こうしたカラマツの様々な用途 ています。このような中で、木曽谷流 造材として需要があり、最近では、 いう特徴があり、合板や集成材等の構 上法の技術が開発されるなど土木用資 カラマツは、強度や耐久性が高いと



真2)。 けて、比較的広く分布しています(写 これまで、カラマツ材は、利用段階

が経過した、利用に適した人工林も多 資源を、林業の活性化や地域振興に牛 の資源が少なかったため十分活用され くなっており、今後は豊富なカラマツ てきませんでしたが、植栽後50~60年 谷流域森林整備推進協定 調印

かしていくことが期待されます。

調印式の記念写真

安定供給を行っていくことが課題とな 材の需要に対応し、 まとまった量での

不曽谷流域森林整 協定の締結

そこで、木曽谷流域では、木曽地区内 木材の供給を行うことが効果的です。 めには、民国が連携して森林の整備・ が約6割、民有林が約4割となってお 木曽谷流域では、 豊富なカラマツ資源を有効に活用 需要に即した供給を行っていくた 森林のうち国有林 に対応した仕分や、増加するカラマツ

ました(写真3)。 曽谷流域森林整備推進協定」を締結し 月に全国 の民有林・国有林が参加して、 一の規模(14万5千㎞)の「木

祖村に所在する木曽森林管理署の薮原は、民国連携した輸送対策として、木

土場を中間土場として活用することと

げることができます。木曽谷流域で

性の向上や木材の安定供給に取り組む ことにしました。 において、 する 「木曽谷流域森林整備推進協議会」 売組合、 木曽郡全6町村、 具体的には、協定メンバー 森林管理署等15団体)で構成 民国で連携して林業の生産 同郡内森林組合、 (長野県 市

産性向上の取組

系の作業システムを活用していく必要 の効率性を高める取組に加えて、車両 向上に向けて、架線系の作業システム を行ってきました。今後は、生産性の 従来は、架線系の作業システムで集材 木曽谷流域は、 急峻な地形が多く



森林整備の結果、

生産された丸太

写真6

た効率的な輸送

<u>5</u> 入し、 があります。車両系の作業システムの けた取組もはじまっています(写真4、 組合では、 ています。 共同施業団地」を設定し、 林整備推進協定」に基づき、 導入には、 森林作業道等の整備を行う「森林 車両系作業システムの定着に向 新たな高性能林業機械を導 こうした中で、 道作りが重要であり、 整備を進め 地元の森林 民国連携

ラマツ人工林が多く分布しているこ

幹線道路に近く大型トレーラーの

理化に適した条件を満たしています 乗り入れも容易であること等輸送の合

(写真6)。

この中間土場を活用することにより、

用に十分な面積があること、

しました。

薮原土場は、

民国の共同利 周囲に力



なりました。

薮原土場での仕分け作業

民国連携の林産物の安定供給

行う場(中間土場)を設け、

より大型の

トレーラー等で運ぶことでコストを下

個々の施業地からばらばらに運ぶより

時的に丸太を集積し、

仕分けを

合板工場等に輸送されますが、

カラマツ材を合板や集成材等に加工

では、 等に向けて供給する取組を行っていま 協調出荷することとしました。 結し、民有林材と国有林材をまとめて 売を実現するため、 す。この取組では、 ています。このため、 量を安定的に供給することが求められ ており、 する工場は、 民国が協調して大型の合板工場 年間を通じて、 多くの丸太を必要とし 需要先と協定を締 安定取引や有利販 中部森林管理局 まとまった

きます。 る供給の拡大に向けた取組を行ってい の供給予定量は、国有林材2, 協定における平成26年度のカラマツ 471㎡ですが、今後は、さらな 民有林材2,190㎡、 民国計 2 8 1

めて効率的に輸送をすることが可能と 需要に即した仕分けを行った材をまと

ラ後の取組

体となって取り組んでまいります。 図るとともに、 スト低減の成果を山元に還元等を通じ 着させるとともに、 者と需要者に信頼される事業として定 給の実績を積上げる必要があります。 供給に着手しました。当面は、安定供 国連携による木曽産カラマツ材の安定 よる木曽産カラマツのブランド化やコ さらに、事業規模を拡大しつつ、 振興に寄与できるよう、 中部森林管理局では、 地域の林業・木材産業の活性化を 雇用拡大等による地域 販売の工夫等に 今回初めて民 関係者と 生産